



われわれはみな、
グレート・スピリットの庭に 咲く花なのであると、
わたしは教えられた。

われわれは同じ根っこをわけあっていると。

その根とは、 母なる大地のことなのだ。
その庭が美しいのは、さまざまな色があるからだ。
オー・シンナ (アメリカ先住民)



大地が横たわっている。

大地の魂が横たわっている。

その上はすべての生き物で装われている。

聖なる言葉が横たわっている。

(Photo by (c) Tomo.Yun

<http://www.yunphoto.net>

ナバホインディアン



どうかわたしを、美のなかに歩ませ、
なにとぞこの眼に、赤と紫の夕陽をお見せください。

(Photo by (c)Tomo.Yun

<http://www.yunphoto.net>

この両手が、
あなたの創られたものを、尊敬させるようにしてください。

この耳を、
あなたの声が聞こえるように、鋭くしてください。

トム・ホワイトクラウド



(Photo by (c)Tomo.Yun

<http://www.yunphoto.net>

鳥が歌い、そして人々も歌い、
やがて命の歌がひとつになる

ロングヘヤー・カチナ (ホピ族)



(Photo by (c) Tomo.Yun

<http://www.yunphoto.net>

わたしの体に 血がめぐるように
木々のなかを 樹液が流れている。
わたしは この大地の一部で
大地は わたし自身なのだ。

シアトル首長



見上げる 夏の日の 大空にわたしの 姿を さがしもとめ
道に響く わたしの 足音にあなたの 耳を こらしなさい。
石を 持ちあげて みれば

そこに わたしは いる。

HO!

シャイアン・インディアン



**大地は わたしたちに属しているのではない。
わたしたちが 大地に属しているのだ。**

シアトル首長



(Photo by (c)Tomo.Yun

<http://www.yunphoto.net>

**あらゆるものが つながっている。
わたしたちがこの命の織り物を織ったのではない。
わたしたちは そのなかの一本の糸にすぎないのだ。**

シアトル首長



(Photo by (c)Tomo.Yun

<http://www.yunphoto.net>

気がついたんだ
おれたちに同じ時間が
流れていることに

星野道夫『クマよ』より



今日も「おはつ」 お日さま おはよう
新しい朝を ありがとう
今日という日の あちこちに
いろんな「おはつ」が まっている

そうなんだ
世界は まいにち生まれただて
世界は まいにち「おはつ」！

(Photo by (c)Tomo.Yun

<http://www.yunphoto.net>

くどうなおこ



(Photo by (c)Tomo.Yun

<http://www.yunphoto.net>

子供は親を鏡に育つよね。
人間は、地球を鏡にして生きなくっちゃあ。

坪田愛華



(Photo by (c)Tomo.Yun

<http://www.yunphoto.net>

落ちていく枯葉だって美しい。肥料にもなるし...。
木はそのことを知っているのよ。

坪田愛華



(Photo by (c)Tomo.Yun

<http://www.yunphoto.net>

空を見ていると、
自分がとても小さく見えるって言うけど、私は逆。
自分が空一杯にどんどん広がっていくの。

坪田愛華



地球上の
生命
大気
水

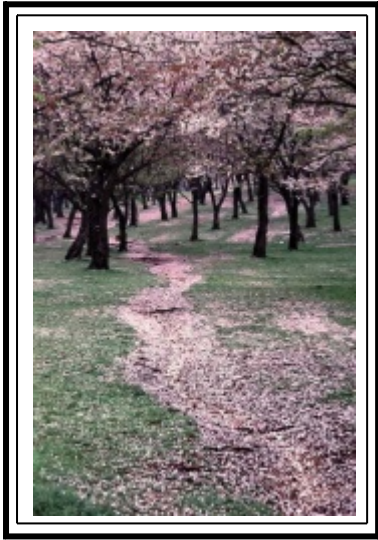
すべてのいのちは一つ。
食物連鎖の中で
何も余分なものは無い。

生き物すべてが支えあってこそ
地球の環境は守られる

(Photo by (c)Tomo.Yun

<http://www.yunphoto.net>

坪田愛華



みんな

おまえが来たのを知っている
森も、森を吹き抜ける風も
父なる山が、子どもたちに
歓迎の歌を歌わせているのさ

『リトル・トリー』より

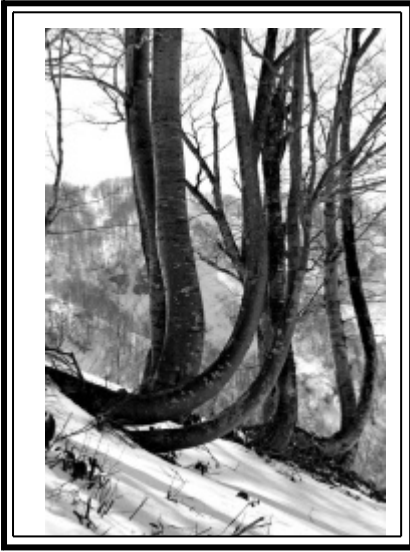


(Photo by (c)Tomo.Yun

<http://www.yunphoto.net>

理解というものは愛と同じものなの。
でもね、かんちがいする人がよくいるんだ。
理解してないくせに愛してるふりをする。
それじゃなんにもならない。

『リトル・トリー』より



(Photo by (c)Tomo.Yun

<http://www.yunphoto.net>

きつい冬も時々は必要だ、
それがなにかをかたづけ、
なにかをすこやかに育てる
自然のやり方なのだ。
例えば、
氷は木の枝のうちの弱いもの
を選んで折ってしまう。
もっと強い枝を出させるためだ。

『リトル・トリー』より



(Photo by (c)Tomo.Yun

<http://www.yunphoto.net>

ぼくは道端に腰をおろし、
靴と靴下を脱ぎ捨てた。・・・・
素足の裏に土のかすかなぬくもりが伝わり、
すねから膝へ、膝からももへと、ゆっくり重い登ってくる。

『リトル・トリー』より



なにかいいものを見つけたとき、
まずしなくちゃならないのはね、
それをだれでもいいから、
出会った人に分けてあげて、
いっしょに喜ぶことなの。
そうすれば、
いいものはどこまでも広がってゆく

『リトル・トリー』より



山の頂に目を向けて
朝の誕生を見てごらん
木々の間から聞こえる風の歌に耳を澄まし
母なる大地から湧き出す生命を感じてごらん

『リトル・トリー』より